# あなたの森林は間伐していますか

## 福岡悦子さん（道目木）

近年、木材産業、自然環境の両面にわたって林業への関心が高まっていると思います。大館市でも特に小畑市長が林業への並々ならぬ政策をとらえ、森林整備公社の設置、秋田杉乾燥材の利用拡大策、秋田杉製品の産直協同組合設立、そして秋田杉による世界最大級の木造「樹海ドーム」建設などがあげられます。

そこで初めて森林整備公社を訪問し、その目的や実情についてお聞きしました。

間伐された山林を見学している福岡リポーター（左）

戦後植えられた杉林は除伐や間伐などの手入れが必要な時期に入っています。しかし、木材の価格が安いことや、山林に働き手が少なくなったことなどから手入れの遅れている林が多くなっているようです。このため、除伐や間伐の手入れを主として森林づくりを計画し、効率的に推進するため公社が設立されたとのことです。市民の大切な資源としての森林を育て、良質の木材を生産することを目的として平成五年から運営されています。事務局は農林課林務係にあり、三人のスタッフが活躍しています。

農業は毎年収入が見込まれますが、木材は約五十年たたなければ利用できません。当面の収入につながらない林業であれば、どうしても植林やその後の下刈り、除伐、間伐がとどこおりがちになるようです。公社で計画する間伐は、国や県の補助があり、所有者の負担は一〇パーセント（一ヘクタールあたり約二万四千円）の費用ですむとのことです。公社自体のPRが少ないためか、利用者があまり多くないとのことで、広報や新聞などをもって活用されたらと、残念に思いました。この制度を利用できるのは、植えてから三十年未満で、さらに〇・一ヘクタール以上のまとまりがある場合とのことでした。しかし、所有者が入り組んだり、場所が分散したりしているところが多く、境界を調べたり、測量したうえで計画をまとめるのが苦労のようでした。

公社からの説明をお聞きしたあと、花矢地区の間伐した後の山林を見学させていただきました。特に昨年間伐された林では、陽光がいっぱい差し込み、青々とした下草が、まるでじゅうたんのように私をつつんでくれました。それは、しばしの森林浴でした。

今回のリポートを体験し、改めて森林の大切さを痛感させられました。また、森林への愛着も深まった心境です。

森林公社として、市民がもっと森林に親しめるような森林浴ラリーや四季折々の行事を実施してはどうでしょうか。なお、これからも市民の財産として、また貴重な自然環境としての森林づくりにご尽力ください。